



北浦の風

自主 勤労 協和

文責:佐藤 清

学校教育目標

夢と希望に向かい
自ら学び心豊かで
たくましい生徒の育成

教育方針

『子ども主体』
～生徒一人一人のよさを
伸ばし、自信と夢を
もたせる～

3学期のスタート

令和5年(2023年)がスタートしてから早10日が過ぎ、本日から第3学期が始まりました。さて、今回は土日や祝日を入れて17日間の冬休みでしたが、お陰様で休み中は大きな事故や事件などもなく、生徒たちは元気に3学期を迎えることができました。新年を迎えた今、新たな希望と目標をもって学校生活を始めた人も多いと思います。希望や目標こそが、一生懸命頑張れる源であり、人生を豊かにしてくれる鍵になります。一人一人が目標をしっかりと決め、意志を強くもち、自分の立てた目標の実現に向けて努力を重ねてほしいと思います。昔から『冬の寒きを経ざれば春の暖かきを知らず』ということわざがあります。植物は冬を越えてこそ春に美しい花を咲かせることができます。人間も苦労があるからこそ楽しさや喜びを感じることができるという意味です。

3年生は今、進路の実現という試練に直面しています。そしてその試練に真剣に向き合い、乗り越えていく力が試されています。本番が近付いてくるにつれ、不安な気持ちになるのは当然なことです。こうした不安の中にいるのは自分一人だけではありません。高校受験に臨む多くの受験生は同じ気持ちをもっていることでしょう。その同じ思いで本番を迎えようとしているこんな時こそ、ぜひこれまで学校生活を共にしてきた仲間がいることを思い出してほしいと思います。昔から受験は個人戦ではなく団体戦だと言われることがあります。これは、志望する高校はそれぞれ異っていても、みんなでお互いを支え合い、みんなでこの受験という壁を乗り越えてほしいという願いからきているものです。

また、1、2年生にとってもこれからの3か月はそれぞれの学年のまとめの時期でもあり、そしてまた、4月からの新たな学年の準備の時期でもあります。1年生は、この4月には新入生が入学してきます。先輩と呼ばれて恥ずかしくないようきちんとした生活を心がけ、学習、部活動に一生懸命に励んでください。また、2年生はこの4月には最上級生になります。最上級生になれば、1、2年生のよき模範であり、学校の顔として責任ある行動が求められます。この3学期の間に、北浦中の最上級生になるという自覚を高めてください。そして北浦中のよき伝統を引き継いでいってください。

為せば成る (信念をもって一生懸命に努力を続けていけばやがて事が成る)

この言葉は江戸時代の大名であった上杉鷹山(治憲)の『為せば成る 為さねば成らぬ何事も 成らぬは人の 為さぬなりけり』からきています。上杉家は出羽国米沢藩にありました。米沢藩は18世紀中頃には借財(借金)が20万両にもなり、深刻な財政状況にありました。また、農村の疲弊や洪水による被害が藩の財政を直撃しました。新しく藩主に就任した上杉鷹山は、財政の再建を図るため生活費を切り詰め、土を耕し、帰農を奨励し、産業の振興を図りました。自らも粥を食べ粗末な服を着て、質素儉約に努めました。さらに、学問所を藩校「興譲館」として再興させ、藩士、農民を問わずに学問を学ばせました。途中さまざまな困難がありましたが、次第に藩は立ち直り、天明の大飢饉の際には被害を最小限に食い止めました。

「為せば成る」の気概をもって今年も教職員が力を合わせ北浦中の教育を充実させてまいります。保護者の皆さまには今年も昨年同様、北浦中に対しましてあたたかいご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

